

環境目標と実績

主要な環境活動について目標値を定め、環境負荷の継続的な低減に努めています。

項目	単位	実績			2013年度 目標値	
		2011年度	2012年度	2013年度		
地球環境問題への取り組み	販売電力量あたりのCO ₂ 排出量 []はCO ₂ 排出クレジット等反映前 ^{※3}	kg-CO ₂ /kWh	0.503 [0.525]	0.599 [0.612]	0.617 ^{※4} [0.613]	— ^{※5}
	CO ₂ 排出量 []はCO ₂ 排出クレジット等反映前 ^{※3}	万トン-CO ₂	4,300 [4,480]	5,020 [5,130]	5,210 [5,180]	
	販売電力量	億kWh	854	838	844	
	原子力利用率	%	31.4	0	0	— ^{※5}
	再生可能エネルギー（太陽光・風力） 設備導入量（累計） ^{※6}	万kW	115	155	315	2020年度末までに 700程度
	送電端火力総合熱効率（高位発熱量ベース） []は低位発熱量ベース換算値 ^{※7}	%	39.5 [42.2]	39.2 [41.8]	39.4 [42.1]	— ^{※5}
	送配電ロス率	%	4.7	4.4	4.8	— ^{※5}
	オフィス電力使用量	百万kWh	69	58	58	58以下
	コピー用紙購入量	トン	554	528	438	570以下
	上水使用量 ^{※9}	m ³ /人	28	25	23	32以下
	電気自動車導入台数（累計） ^{※10}	台	165	187	179	2020年度末までに 1,000程度
	一般車両燃料消費率 ^{※11}	km/ℓ	12.1	12.4	12.4	12.0以上
	SF ₆ 回収率	機器点検時	%	99	99	99
機器撤去時		%	99	99	99	99以上
機器点検時の規制対象フロン回収実施率		%	100	100	100	100
循環型社会形成への取り組み	産業廃棄物リサイクル率	%	約100	99	約100	99以上
	石炭灰リサイクル率	%	100	100	100	100
	石炭灰以外リサイクル率	%	98	97	97	98以上
	産業廃棄物社外埋立処分量	トン	38	9	1,704	— ^{※12}
	古紙リサイクル率	%	100	100	100	100
	グリーン調達率 ^{※13}	%	約100	約100	約100	極力調達 ^{※14}
地域環境の保全	火力発電電力量あたりのSOx排出量	g/kWh	0.27	0.30	0.41	極力抑制 ^{※15}
	火力発電電力量あたりのNOx排出量	g/kWh	0.25	0.29	0.26	極力抑制 ^{※15}
	原子力発電所周辺公衆の 線量評価値（1年あたり）	ミリシーベルト	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満

※1：2013年度目標値に対する2013年度の達成状況を、「☑️：達成」、「☹️：概ね達成（達成率80%以上）」、「❌：未達成（達成率80%未満）」の3段階で評価。なお、2013年度の目標値を持たない項目については、2012年度実績との比較で評価（（ ）書きで記載）。

※2：下線部は目標を見直した箇所。 ※3：CO₂排出クレジットによる削減量及び余剰買取制度・固定価格買取制度による調整の反映前。

※4：暫定値であり、正式には「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、国が実績値を公表。

※5：原子力発電所の運転再開に関する見通しが不透明であること等により設定を見送り。 ※6：自社開発及び電力購入による設備導入量。

※7：総合エネルギー統計の換算係数等を用いて換算。

※8：省資源活動の徹底を図る観点から、過年度実績を深掘り。

用語集を
ご覧ください

- 地球環境問題
- CO₂排出クレジット
- 原子力利用率
- 再生可能エネルギー
- 熱効率
- 発熱量
- 送配電ロス（率）
- 上水
- 電気自動車
- SF₆（六フッ化硫黄）
- 規制対象フロン
- 循環型社会
- 産業廃棄物
- リサイクル率
- 石炭灰
- グリーン調達
- SOx（硫黄酸化物）
- NOx（窒素酸化物）
- 線量評価値
- シーベルト
- 余剰買取（制度）
- 固定価格買取制度
- 地球温暖化対策の推進に関する法律

評価*1		2014年度 目標値*2	関連 ページ
-	電気の供給面と使用面の両面から地球温暖化対策に取り組んでおりますが、東日本大震災の発生以降、原子力発電所の運転停止が継続し、代替する火力発電量の大幅な増加により、CO ₂ 排出量が増加しています。今後とも低炭素社会の実現に向け、最適なエネルギーミックスの追求を基本に、安全の確保を前提とした原子力発電の活用、再生可能エネルギーの積極的な開発・導入、火力発電所の熱効率維持・向上及び当社自らの節電・省エネ活動の徹底など、電気の供給面と使用面の両面から地球温暖化対策に取り組んでいきます。	今後、国が策定するエネルギーミックス及び地球温暖化対策計画を踏まえ、新たな目標を検討	11
-	東日本大震災の影響等により、年間を通じて稼働はありませんでした。	—*5	
OB	2013年度末までに累計で、風力43万kW、太陽光272万kW、合計315万kWが導入されています。今後とも、グループ会社を含めた積極的な開発や電力購入を通じて、再生可能エネルギーの導入拡大を図ります。	2020年度末までに700程度	11 15
OB	熱効率の良いLNG・石炭火力発電所の高稼働に努めた結果、2012年度を上回る39.4%となりました。	—*5	15 16
OB	販売電力量の増加に伴い、送配電設備に流れる電力量が増加しており、損失量についても昨年度より増加していることから、送配電ロス率が2012年度より若干増加しました。	—*5	
OB	空調の適正管理や照明・エレベーターの間引きなど、徹底した節電・省エネに継続的に取り組んだことにより、目標を達成しました。	58以下	17
OB	電子文書の活用によるペーパーレス化の推進やミスコピーの防止、及び古紙の裏面利用の徹底により、目標を達成しました。	490以下*8	
OB	節水活動の継続的な取組みにより、目標を達成しました。	32以下	
B	車両配車計画に基づく計画的な導入により、2013年度末までの累計導入台数は179台となりました。今後とも、収支状況等を踏まえつつ、中長期的な温暖化対策の観点から、社用車への電気自動車の導入拡大を図っていきます。	2020年度末までに1,000程度	18
OB	車両燃費管理やエコドライブの実施など、運用管理の徹底や低燃費車への計画的な切替えにより、目標を達成しました。	12.0以上	
OB	点検時・撤去時における真空型SF ₆ ガス回収装置の使用徹底等を図り、目標を達成しました。	98以上	20
OB		99以上	
OB	法令基準レベル（撤去時における法定圧力）までの規制対象フロン回収の確実な実施を図り、目標を達成しました。	100	
OB	石炭灰の特性を活かしたセメント原料やコンクリート混和材等への石炭灰の100%有効利用に加え、全社共同回収による産業廃棄物の確実な回収・リサイクルなど、3Rの着実な実践に努めましたが、石炭灰以外リサイクル率が若干の目標未達成となりました。今後とも、循環型社会の形成に向け、3Rを着実に実践していくことにより、目標達成を図っていきます。	99以上	21 22
OB		100	
B		98以上	
OB	—*12		
OB	古紙100%リサイクル活動の継続的な取組みにより、目標を達成しました。	100	
OB	社内への周知徹底により、目標を達成しました。	極力調達*14	22
OB	NOxは2012年度実績より減少したものの、SOxは2012年度実績を上回る結果となりました。これは、原子力発電所の停止に伴う火力発電電力量の増加や、石油火力発電において比較的硫黄分が高い燃料を使用したことによるものです。今後とも、地域との環境保全協定の遵守を前提に、熱効率の維持・向上に努めることで、排出量の低減を図っていきます。	極力抑制*15	25
OB		極力抑制*15	
OB	適正な設備運用や放射性廃棄物の管理により、目標を達成しました。	0.001未満	29

*9：全社の上水使用量を当社在職者数（当該年度末）で除した値。
 *10：プラグインハイブリッド車を含む。
 *11：電気自動車（EV）は除外。
 *12：修繕工事の規模・頻度等により大きく増減するため、目標は設定しない。
 *13：調達範囲は、汎用品（事務用品、雑貨等）で社会的に認知された基準に適合した製品等。
 *14：活動がほぼ定着していること等を踏まえ、定性目標とする。
 *15：石油火力発電所の利用率により大きく増減するため、定性目標とする。

用語集を
ご覧ください

- 地球温暖化
- 低炭素社会
- LNG
- エコドライブ
- 低燃費車
- 3R
- 放射性廃棄物
- プラグインハイブリッド車